



ふれあいネットワーク

ふくい 社会福祉

2016
1
No.416



CONTENTS

新年のご挨拶・第62回福井県社会福祉大会	2
平成27年度福井県社会福祉協議会 会長表彰	3～5
平成27年度「福井県ボランティア作文コンクール」入賞作品決定 ..	6～7
ふくし広報コンテスト2015受賞団体決定	8～9
ふくい・つながりフォーラム2015開催！	10～11
積善会号寄贈	12

【表紙写真】大野市 結の故郷推進室



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

平成二十八年 新年のご挨拶

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
社会福祉法人 福井県共同募金会
福井県民生委員児童委員協議会

会長 清川 忠



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、本会事業の推進に多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今日の地域社会においては、社会的孤立、経済的困窮、引きこもり、虐待などの福祉課題や生活課題がより深刻・複雑化し、既存の制度やサービスだけでは対応できない狭間の問題が顕在化しています。

こうした中、私たち福祉関係者が地域社会に果たすべき使命と役割をしっかりと認識し行動していくこと

があらためて求められており、地域住民や関係機関・団体等と連携・協働し、地域福祉の担い手として、それぞれの役割を果たしながら、共に支え合う地域づくりを進める必要があります。

制度改革や財源の確保など、福祉を取り巻く環境は厳しいものがありますが、本会としましては、今後とも、誰もが安心して生活できる地域づくりの推進に取り組んでまいり所存でございますので、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第六十二回 福井県社会福祉大会

12月18日（金）福井県生活学習館（ユニー・アイふくい）にて、第62回福井県社会福祉大会が開催されました。

この大会は、福井県において多年にわたり社会福祉の推進に貢献された方々を表彰し、感謝の意を表する大会であり、本表彰を通して、県民ならびに福祉関係者の地域福祉活動に対する意欲を高め、誰もが身近な地域でその人らしく安心して暮らせる福祉社会の実現を図ることを目的

に開催しました。

福井県内の福祉向上に功績のあった民生委員児童委員、福祉委員、福祉施設・団体・社会福祉協議会の役員、ボランティア等429名（団体に）に福井県社会福祉協議会 清川会長より、表彰状が授与されました。

また、他の表彰区分として、ボランティア作文コンクール・福祉広報コンテスト2015の表彰が行われるなど、約500名の参加者のもと、盛大に行われました。



平成27年度

福井県社会福祉協議会会長表彰

【敬称略】

民生委員児童委員功労（97名）

福井市	秋田 幸雄	勝山市	斎藤 清昭
坂井市	朝倉 保雄	勝山市	斎藤 はつゑ
福井市	阿津川 美智子	敦賀市	坂本 浄昭
福井市	荒川 洋一	福井市	坂下 幹朗
あわら市	石谷 金明	福井市	坂本 美佐代
福井市	伊藤 陽子	福井市	笹木 り子
福井市	岩崎 美枝子	坂井市	佐藤 和子
大野市	岩田 千津子	坂井市	佐野 啓子
坂井市	内田 利勝	坂井市	澤邊 まゆみ
福井市	漆崎 東志夫	大野市	清水 進治
敦賀市	漆崎 美智遠	坂井市	清水 秀治
坂井市	大門 豊子	福井市	関西 愛子
坂井市	大久保 昭恵	福井市	関西 千鶴子
勝山市	大沢 佑治	坂井市	高柳 哲夫
福井市	大橋 信男	鯖江市	竹内 香代子
福井市	奥津 桐子	鯖江市	竹内 千嘉子
福井市	加賀 のぞみ	福井市	竹内 紀彦
福井市	加藤 鐵男	敦賀市	竹田 紀武
福井市	北倉 憲治	福井市	為国 幸子
福井市	北村 はるみ	敦賀市	槻木 幸子
勝山市	木永 つや子	坂井市	坪内 元明
勝山市	久保 すみゑ	坂井市	坪内 鈴子
福井市	久保 美貴子	坂井市	中川 まさ江
坂井市	倉田 教信	勝山市	中野 裕子
福井市	後藤 聖子	勝山市	仲村 龍男
福井市	小林 千恵子	福井市	中村 誠
福井市	近藤 輝彦	敦賀市	中村 美保子

福祉委員功労表彰（39名）

福井市	野坂 恵子	勝山市	松村 純子
福井市	野村 八重子	福井市	三上 ひろ子
坂井市	萩原 一	南越前町	三田村 雅信
勝山市	長谷川 淳一	越前町	皆川 猛
勝山市	林 松治	福井市	南 京美
福井市	平井 非佐子	あわら市	宮川 志江
南越前町	藤澤 敏美	敦賀市	宮原 義典
敦賀市	舟木 和子	勝山市	安田 敬子
福井市	細田 英子	坂井市	山口 奈美子
勝山市	細野 富恵	鯖江市	山口 真二
福井市	堀江 克三	坂井市	山崎 五十二
福井市	前川 逸子	勝山市	山田 信子
大野市	前田 啓子	福井市	山田 美枝子
福井市	前田 紘一	南越前町	山本 小夜子
福井市	牧野 定子	敦賀市	山本 忠一
越前町	増田 正	坂井市	横井 澄子
福井市	増田 利博	福井市	吉澤 充名栄
勝山市	松井 誠一	福井市	吉田 真由美
福井市	松田 淑子	福井市	若泉 しげ子
敦賀市	松永 久美恵	福井市	若島 勝志
大野市	松原 明美		

社会福祉施設功労表彰（114名）

越前町	野村 範子	越前市	湯本 多美子
敦賀市	西村 幸子	越前市	山口 弥治右エ門
越前市	夏目 佳代子	敦賀市	安井 溪子
敦賀市	中山 嘉恵	越前町	宮口 昌之
大野市	中村 恵子	坂井市	美濃 昭義
越前町	仲間 京子	敦賀市	増田 恵美子
越前市	中野 桂子	敦賀市	堀井 照子
敦賀市	中嶋 妙子	敦賀市	邊 見照子
越前町	高橋 忠子	敦賀市	福島 律子
敦賀市	杉田 絹代	越前町	平佐 政雄
越前町	島 世志子	敦賀市	原 ちえ子
越前市	坂口 幸子	大野市	浜岸 つみ子
越前市	児玉 幸子	坂井市	橋本 美智子
越前市	久保 淳子	越前市	
越前市	河端 里代子		
福井市	五十嵐 慶子	福井市	秋山 直子
南越前町	上田 裕美子	福井市	すみれ荘
南越前町	宇佐美 雅子	福井市	悠和園
南越前町	笛吹 久美子	福井市	ほのぼの苑
南越前町	笛吹 里美	大野市	ほのぼの苑
大野市	梅崎 弥四郎	大野市	大野和光園
福井市	永善 嘉美	福井市	すみれ荘
福井市	榎波 喜久子	福井市	すみれ荘
南越前町	大倉 佳代	福井市	ほのぼの苑
福井市	大澤 千明	福井県児童科学館	
坂井市	太田 好城	サポートセンターかすみ	

福井市	大西 佳世	あくてい	福井市	畑 山 泰清	若狭町	片 山 暢子	みそみ保育所
あわら市	尾 岸 美奈子	クリーンねつと金津	福井市	馬 場 江利香	鯖江市	川 越 智子	草の実保育園
福井市	尾 武 朱美	すみれ荘	福井市	濱 下 啓子	若狭町	河 村 美鈴	三宅保育所
福井市	櫻 原 恵子	すみれ荘	福井市	濱 本 佳子	若狭町	河 村 美和	中央保育所
越前町	勝 山 了然	やまぼうし	南越前町	平 澤 早苗	大野市	木 瀬 宏代	春日保育園
福井市	加 藤 礼子	こしの渚苑	福井市	前 川 長慶	若狭町	北 川 香緒里	わかば保育園
越前町	金 津 晃司	やすらぎ荘	福井市	松 田 喜久子	永平寺町	錦 古 里 裕美	志比北幼児園
福井市	川 畑 百合子	こしの渚苑	福井市	三 上 いづ美	若狭町	呉 林 智代	わかば保育園
坂井市	北 山 千秋	白楽荘	福井市	水 野 博文	鯖江市	桑 原 真須美	草の実保育園
福井市	木 下 晋一	あすわ地域生活支援センター	大野市	宮 下 則之	福井市	児 嶋 裕貴子	幼保連携型認定こども園あさかぜ
福井市	木 下 恵	こしの渚苑	福井市	宮 島 友記	鯖江市	小 高 百恵	草の実保育園
福井市	國 兼 尚子	すみれ荘	福井市	向 川 倫明	福井市	小 林 浩子	西藤島保育園
大野市	久 保 弘子	福井県済生会聖和園長	若狭町	村 上 美恵子	大野市	駒 久 美子	荒島保育園
福井市	佐 倉 祐花理	足羽更生園	福井市	村 田 弘孝	福井市	齊 藤 陽子	いなやま保育園
福井市	定 永 幸子	すみれ荘	鯖江市	数 方 巳	福井市	酒 井 喜美恵	森田栄保育園
池田町	佐 飛 喜代美	池田町幸寿苑	あわら市	山 口 郁恵	若狭町	左 近 理恵	のほな保育園
福井市	杉 本 篤子	こしの渚苑	鯖江市	山 田 勝久	坂井市	白 石 千秋	霞幼児園
福井市	巢 守 誠	山翠苑	福井市	山 本 月子	若狭町	竹 内 美央	気山保育所
福井市	高 山 明子	すみれ荘	福井市	山 本 昌樹	若狭町	武 田 恵美子	気山保育所
大野市	竹 澤 慈仁	ほっと	坂井市	吉 野 直子	大野市	竹 原 絹代	いなやま保育園
福井市	武 安 佳代	山翠苑	大野市	米 村 恵美子	福井市	棚 田 優子	北部保育園
福井市	田 嶋 信治	すみれ荘	鯖江市	赤 松 弘美	若狭町	寺 井 和美	みそみ保育所
池田町	谷 洋 子	池田町幸寿苑	若狭町	池 上 幸子	若狭町	天 渡 美紀	のほな保育園
福井市	田 村 三世子	こしの渚苑	福井市	池 田 恵利子	勝山市	永 井 千津子	松文保育園
坂井市	寺 嶋 由美子	白楽荘	若狭町	池 田 純子	若狭町	中 江 美	とばつ子保育園
小浜市	中 野 謙太	第三やすらぎの郷	坂井市	伊 東 奈美江	福井市	野 原 朋子	森田浜保育園
越前市	中 野 芳美	水仙園	大野市	稲 山 幹夫	坂井市	林 田 浩子	春江保育所
福井市	仲 村 由佳里	すみれ荘	若狭町	岩 崎 昌美	勝山市	菱 田 朱美	鹿谷保育園
福井市	中 山 順代	すみれ荘	坂井市	岩 本 利恵	若狭町	深 川 朝子	中央保育所
南越前町	野 崎 裕子	ほのぼの苑	若狭町	上 野 依希子	福井市	松 井 尚栄	西部保育園
福井市	野 尻 ユキ子	すみれ荘	若狭町	梅 木 洋子	坂井市	宮 崎 ちはる	安田幼児園
福井市	橋 本 博美	若越ひかりの村	大野市	梅 原 洋子	若狭町	森 川 孝子	三宅保育所
福井市	長谷川 弘光	こしの渚苑	勝山市	漆 屋 満里江	福井市	山 田 佑記	幼保連携型認定こども園あさかぜ

敦賀市 山田 ゆき 櫛川保育園
坂井市 山本 和美 春江南保育所
若狭町 和田 誠子 とばっ子保育園

社協・民間団体功労表彰 (40名)

越前市 池田 幸枝 障害者友の会いまたて(評議員)
美浜町 池本 敏子 美浜町社会福祉協議会(理事)
越前市 石本 峰夫 障害者友の会いまたて(評議員)
福井市 泉 幸枝 酒生地区社会福祉協議会(理事)
福井市 稲葉 富子 福井県視覚障害者福祉協会
福井市 岩尾 恵子 鷹巣地区社会福祉協議会(会計担当)
敦賀市 上原 淳治 敦賀市社会福祉協議会
福井市 大森 悦子 順化地区社会福祉協議会(理事)
南越前町 小原 祐子 南越前町社会福祉協議会
福井市 河端 能婦子 和田地区社会福祉協議会(副会長)
福井市 木戸 邦雄 大安寺地区社会福祉協議会(参与理事)
敦賀市 木下 章 北地区社会福祉協議会(理事)
福井市 嶋崎 美枝子 湊地区社会福祉協議会(理事)
敦賀市 杉原 令子 北地区社会福祉協議会(推進委員)
福井市 鈴木 善子 順化地区社会福祉協議会(庶務)
越前町 平等 智恵 越前町母子寡婦福祉会(会長)
福井市 高橋 美由紀 福井県視覚障害者福祉協会
福井市 田中 園隆 福井市遺族連合会(常任理事)
福井市 谷口 昭二 福井市遺族連合会(理事)
福井市 遠田 公一 松本地区社会福祉協議会(理事)
福井市 堂本 初恵 鶴地区社会福祉協議会(理事)
福井市 刀瀬 麒一 越前地区社会福祉協議会(会長)
福井市 西川 征男 豊地区社会福祉協議会(常任理事)
南越前町 浜野 まゆみ 南越前町社会福祉協議会
福井市 原田 典幸 大安寺地区社会福祉協議会(理事)
福井市 日向 明世 福井県手をつなぐ育成会(常務理事)
福井市 藤田 和子 鷹巣地区社会福祉協議会(副会長)

永年勤続表彰功労表彰 (20名)

福井市 堀内 英治 福井市老人クラブ連合会(会長)
越前市 前澤 知子 越前市赤十字奉仕団大虫分団(団長)
福井市 前田 絹代 西藤島地区社会福祉協議会(理事)
越前市 増田 暉美子 寝たきり認知症を抱える家族の会(役員)
越前町 松野 久子 越前町社会福祉協議会
福井市 森長 一郎 福井市老人クラブ連合会(参与)
福井市 森長 澄江 福井市老人クラブ連合会(参与)
越前町 柳瀬 秋子 越前市母子寡婦福祉連合会(理事)
福井市 山口 正好 越前町社会福祉協議会
福井市 山野 弥生 福井県視覚障害者福祉協会
越前市 山本 一子 寝たきり認知症を抱える家族の会(理事)
福井市 吉川 美栄子 松本地区社会福祉協議会(幹事)

勝山市 荒井 淳子 さくら荘
勝山市 池田 由季 さくら荘
若狭町 井関 和代 わかば保育園
福井市 伊藤 正博 うめのき
福井市 岩田 文代 福井市ふれあい公社
福井市 小柏 博英 福井市社会福祉協議会
勝山市 上山 寛泰 さくら荘
勝山市 木村 さな美 さくら荘
福井市 熊田 憲子 岡保保育園
勝山市 島田 美保 さくら荘
若狭町 高木 かつみ わかば保育園
勝山市 谷口 肇 さくら荘
勝山市 長谷川 洋子 さくら荘
勝山市 方堂 艶子 さくら荘
坂井市 堀江 てるみ 宿幼保育園
福井市 宮崎 真理子 上北野保育園
若狭町 村田 雅子 みそみ保育所

社会福祉協議会優良表彰 (1団体)

福井市 六条地区社会福祉協議会

優良ボランティア(個人) (23名)

大野市 荒木 亜男 鯖江市 田辺 ふみ子
鯖江市 安藤 里美 若狭町 寺澤 達雄
鯖江市 石原 美千代 坂井市 任田 幸恵
鯖江市 糸崎 由美子 坂井市 野崎 正子
坂井市 大西 純子 坂井市 野尻 スミ子
坂井市 小畑 智枝子 鯖江市 八田 幸子
越前市 新田 一江 大野市 松田 八重子
鯖江市 金丸 富子 鯖江市 蓑輪 安兵衛
鯖江市 小玉 聖紀 鯖江市 宮塚 みや子
越前市 齋藤 典子 坂井市 吉永 瑞子
坂井市 新宅 時子 鯖江市 渡辺 光枝
坂井市 隅田 弘子

優良ボランティア(7団体)

越前町 織田小学校生活支援ボランティアの会
福井市 手話サークル ひよこ
大野市 天理教婦人会大野支部
福井市 ドレミ音楽舎
敦賀市 布おもちゃ作りボランティアサークル「こつとん」
越前町 広野蚊谷寺ふれあいサロンねこ道場
福井市 友禅の会

平成27年度「福井県ボランティア作文コンクール」入賞作品決定

福井県社会福祉協議会では、『つながれボランティアの輪』推進運動を展開し、さまざまな事業を実施しています。このコンクールは、その事業の一つとして、作文を通じて、県民の皆様のボランティア活動への関心や参加意欲を一層高めてもらうことを目的に平成9年度から実施しており、今回が19回目となります。今年度は「ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと」「ボランティアについての自分の思い・考えていること」をテーマに568点のご応募があり、厳正な選考の結果を経て、次の皆さんが入賞されました。

小学生の部:91点 中学生の部:319点 高校生の部:90点 一般の部:68点 (敬称略)

最優秀賞			
小学生の部	『みんな同じ』	福井市麻生津小学校	5年
中学生の部	『障がいがある人と共に楽しめるスポーツ』	福井市明倫中学校	1年
高校生の部	『私の中でめぐる言葉「ありがとう」～「ありがとう」を大切にしていきたい～』	福井県立丹南高等学校	3年
一般の部	『脳裏から消えない仲間たち』	南越前	
優秀賞			
小学生の部	『ボランティアでより多くの人を笑顔に』	鯖江市鳥羽小学校	5年
中学生の部	『人と人をつなぐ「ボランティア」』	福井県立大野高等学校	2年
高校生の部	『ボランティア体験』	福井県立平	2年
一般の部	『未知との交流』	永	
入選			
小学生の部	『ガールスカウトをされていて』『私がみんなにできること』『車いすバスケット』『保育ボランティアで学んだこと』	福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小	5年、5年、5年、5年
中学生の部	『笑顔が見たくて』『身近なボランティア』『ボランティアの大切さ』『今、できること』	福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小	6年、6年、6年、6年
高校生の部	『初めてのボランティア』『ボランティアで学んだこと』『ボランティアへの思い』『安心できる未来を』『ことばの魔法』	福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小	1年、1年、1年、1年
一般の部	『ボランティアで広がった私の世界』『ボランティアってだれにでも出来る』『ボランティア活動「初めの一步」』	福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小、福井市立豊小	2年、2年、2年、2年
学校賞			
		鯖江市鳥羽小学校、南越前立南条中学校	

最優秀賞（小学生の部） 『みんな同じ』

福井市麻生津小学校 5年 福野 亜美

私は、今年の夏休みにボランティア体験講座に参加しました。一回目は、目の不自由な方のお話を聞いて、伴走ボランティアの体験をしました。



私は、目の見えない方は、上手に歩くことができず、おそかったり、道路では実際に場所へ行ってしまうと思っていました。しかし、たがってしまいうほど、上手に走っていました。しかし、適切なアドバイスが必要であることは分かりました。

曲がり角では、「右、90度曲がります」と伝えます。直前に「曲がります」といったり、コーンにぶつかってしまいました。曲がるときには「5メートル先曲がります」直前で「右、90度」とすばやく言ってくれたら分かりやすいです。と教えていただきました。

その他にも、目の見えない人の生活について教えていただきました。私たちと同じような生活をしていました。でかける時には、ついで物がなければ、点字ブロックを歩くそうです。音のない信号機は、まわりの人の歩いたり、止まったりする足音で赤か青かはなんなんです。す。人が少なくて分からない時に「どうしましたか。今信号機青です。いっしょに渡りましょう。」等と、声をかけてもらえると、とてもうれしいそうです。

私もアイマスクをして外を歩いたことがありますが、とても不安でした。となりにだれかがいて不安でしたが、いるのといないのでは大違いでした。人の温かさを感じました。

二回目は、車いす体験と高齢者疑似体験をしました。私が自分で車いすを走らせようとすると、行きたい方向ではない所に行ってしまう、大変でした。ほんの少しの坂道や段差もあがることで、とても重くて、前かがみになる理由も分かる気がしました。

特しゆなメガネや耳あてをしました。階段を上ったり、さいふからお金を出したり。一つ一つの何気ない動作が、年をとるとこゝろが大変なものと気づきました。体がとても重くて、前かがみになる理由も分かる気がしました。これからは、家にいる私のひいおばあちゃんや、おじいちゃん、おばあちゃんを助けてあげないと

いけないなあと思いました。今回のボランティア体験で、私は、目の不自由な方も車いすで生活をしている方も、少しの工夫で、私たちと同じような生活をしていることが分かりました。ただ、困ることはあるとお聞きしたので、私は、それは、障がいがあってもなくても同じだと思いました。

私は、困っている人に出会ったら、優しく声をかけられる人になりたいです。学校でも、家でも、地いきでも同じだと思っています。みんなが優しく声をかけあうことができれば、みんなが幸せな生活ができると思います。今回のボランティアは、私に多くのことを気付かせてくれました。

最優秀賞（中学生の部） 『障がいがある人と共に楽しめるスポーツ』

福井市明倫中学校 1年 真柄 有貴

僕は、夏休みに「伴走ボランティア講座」に参加しました。以前から、人の役に立てることは何かと考えるようになり、福祉に関心をもつようになってきたことがきっかけです。



まず、自分には何のボランティア活動ができそうかと考えてみると、小学校の時からサッカーをしているので、スポーツに関する活動なら何ができそうかなと思った。そんな時に母から、「伴走ボランティア講座」の誘いがあり、参加することになった。

最初は、伴走ボランティアってどんなことをサポートするのか、ただ、目が不自由な人と一緒に走って、ただ単に引つ張って走ればよいくらいに考えていた。

ボランティア講座の当日、伴走ボランティアをしている鈴木さんのお話を聞いてみると、自分が考えていたことは全く違っていた。伴走ボランティアは、目の不自由な人が安全で楽しく走れるようにサポートするもので、ランナーにいいタイムを出してあげることはないと話されていた。伴走者（ボランティア）が、走っている時に危険がないか言葉で周りの状況を伝え、常に気を配り声かけしながら走りをサポートしていくものであった。

自分が考えていたこととは大きく違っていた。共に走ることに加え、伴走者が常に気を配り、周囲の状況をきめ細やかに言葉で伝え、危険を避けていけるようにしていくことが必要なのである。正直、僕は走るだけで精一杯でヘトヘトになってしまい、方角を示す以外の声かけの言葉がなかなか出てこなかった。走るスピードも、目が不自由

由であっても、僕ら以上に速いスピードで走る姿に本当に驚いた。体験で目隠しをして自分が走ったときは本当に怖かった。何かにぶつかるのではないかと、不安な気持ちでスピードが出せなかった。伴走者の言葉が本当に頼りだったことが思い出される。

ランナーがそんな速いスピードで走れるのも、そばで伴走している人の言葉を信じて安心して走れるからだと感じた。ランナーと伴走者との信頼関係がしっかりとできることで安心して走れる。そして、走るこの喜びを共に分かち合えるのも、伴走ボランティアの楽しさであると感じた。

スポーツが苦手だという人もいるが、僕はどんな人も楽しめ、新しい気持ちで共有できる素敵な活動だと改めて感じた。

自分もスポーツ（サッカー）に出会ったからこそ、今の自分がある。スポーツを楽しむことはもちろんだが、そこから①努力すること②継続して取り組む力③悔しさを力に変える心、頑張る強い気持ちが生まれたと思っている。障がいがある人たちにもスポーツを通していろんな気持ちを感じたり、スポーツの楽しさを知ってほしい。また、自分も障がいがある人たちと一緒にスポーツをすることで、いろんな人たちとの出会いや発見を楽しみたいと思う。今回は伴走のサポート体験で、教えてもらったことが本当に多かったと思う。また、機会を見つけて伴走の活動に参加したいと思う。

三年後に福井県で国体があるが、障がい者スポーツをサポートする人たちがたくさんいれば、障がいがある人たちが今以上にスポーツに出会え、また、楽しめる機会が増えると思う。ほくもサッカーを通じて「走る」という機会に出会え、新しい発見が得られた。

将来、スポーツを通して、もっと多くの人たちと出会い、共に楽しみ、障がいがある人たちにスポーツの楽しさを伝えていきたいと思う。

最後に、世の中には障がいの有無にかかわらず、いろんな境遇の人達が暮らし、また自分達も大なり小なり周囲の人に支えられ暮らししている。ちょっとした人の気遣いがあれば地域で生活している人も多くいると思う。

自分も、普段から相手の立場に立ち、人への気遣いができるような人間になれたらと思う。

最優秀賞（高校生の部）

『私の中でめぐる言葉』『ありがとう』

『ありがとう』を大切にしていきたい』

福井県立丹南高等学校 3年 細井 香奈代

ボランティアとは何か。私の中でボランティアとは一言で表すことができないすごく大きな活動。私とボランティアの出会い、小学校ぐらいだったのだろうか。自分の住んでいる地区で早朝ゴミ拾いがあり、たまたま親について行っただけ。

その頃の自分はボランティアをしていないんだよ！なんて気持ちもなかったゴミを拾って、「ありがとう」と言われ照れていたことしか記憶にない。

それから数年、私は高校生になって部活動参加が強制だった。友達ととにかく活動日が増え、一回の部活動を探した。行き着いた場所はJRCレオクラブ。名前だけでは何をしているのか全然分からずすぐ辞める前提で入部した。この部活動の主な活動はボランティアだった。

ボランティアと聞いただけで辞める気が増した。行く前から面倒で部活動に行くのもだるかったのが本音だ。

ボランティアを主にやっている部活動だけあって入部してすぐ鯖江市のつじまらソンのボランティアに強制参加させられた。ボランティアというのになぜ強制参加なのか不思議でたまらなかった。とりあえずやってみようという気持ちで、ランナーの方に水分を配る仕事をされた。いざやってみると楽しくて仕方なかった。笑顔で、「ありがとう」と言われるだけでそれほど嬉しいか。自分までもが自然と笑顔になれる魔法の言葉とまで思った。

ボランティアに行く前日まで面倒としか思っていなかったのに、仕事を始めて数時間でボランティアの魅力や楽しさを見つけて、ボランティアに惹かれていった自分が怖かった。辞めることしか考えていなかったのに知らない間に続けることしか頭になかった。

初めてのボランティアが終わってから保育園訪問をした。小学校相手のボランティアをしたり、障がい者の方の運動会に参加したりした。どのボランティアに行っても「ありがとう」の言葉を言ってもらえる。「ありがとう」と言ってくれて「ありがとう」と思うのは私だけだろうか。私まで笑顔にさせてくれるのだから感謝しかない。

小学校の頃にたまたまボランティアを行い、その頃はボランティアに対してなにも関心がなかった私。そんな私が高校生になり辞めるつもりで入った部活動がきっかけとなり、ボランティアの魅力を知ることができた。

私にとってボランティアとは？と考えると、最初に述べた通り、一言では表せない大きな活動だと思ふ。なぜなら周りを見て行動したり、その時に適した行動をとらなければいけないという大変な面もあるが、やりがいを感じることができる楽しい面もたくさんある。それに一回ボランティアをするだけで数多くのことを学べ、考えさせられる。このようなことを含めたのがボランティアの魅力だ。

高校三年間、JRCレオクラブとしてボラン



ティアを続けて得たものがある。それは自分自身が役に立っているという満足感であったり、ボランティアと一緒にいる人々との出会いの輪などだ。卒業するまであと何回ボランティアに参加できるかわからないが、できるだけ多くのボランティアに参加し、一つでも多くのことを学びたいと考える。

最優秀賞（一般の部）

「脳裏から消えない仲間たち」

南越前町 大河内 肇

交通事情の緩和で自宅待機が解除され震災発生から八日目、いよいよ出発、私にとって伊勢湾台風（昭和三十四年）に続く二回目のボランティアである。



現地の受付事務所へ入ると、西宮市災害対策本部から長期派遣要請があったと知らされ、私を含め三人は西宮市役所へ移動となった。夕暮れの市役所周辺は、全国各地から届いた救援物資で埋め尽くされ、所狭しと積み上げられたその下では、小さな灯りを頼りに多くのボランティアが動き回っていた。

高く積み上げられた救援物資と救援物資。その僅かな空間を縫うようにして市役所の玄関へ入ると、そこには、寝袋や日用雑貨、食料品、衣類等を詰め込んだ大きなリュックを背に、体を「V」の字に折り曲げるようにして、全国各地からぞくと救援活動にやってくる若者ボランティアたちで、ごった返していた。

広々として底冷えがする西宮市役所の地下駐車場で、ここが我々の活動拠点として、全国各地から大量に送られてくる救援物資の仕分け作業や食料品を、各避難所へ届ける為、配送作業の説明と、自己紹介があった。

驚く事に私を除く全員が二十代の若い青年男女で、総勢七十六名（二十四名の女性を含む）と確認された。

食糧配給部として早速、弁当・水・清涼飲料・副食・茶・パン・牛乳など、品目毎に班が作られ、私は十人編成の弁当班に入った。

ここは、災害対策本部からの指示により百五十数ヶ所の避難所へ、午前と午後合わせて一日に五万八千食分が各避難所へ配送されたが、これら救援物資の仕分け作業や配送時の積み降ろし作業は、男女の区別なく全て手渡しで行われた。全く火の気（暖房）のない底冷えがする地下駐車場には、救援物資を積んだ搬入車両が午前と午

後、配送車両を含めると一日延べ約二百六十台から出る排気ガスに悩まされるなど、厳しい環境の中での作業であった。

災害対策本部より連絡があった。救援物資の搬入は、交通渋滞の影響で真夜中にずれ込むことが多く、我々はその合間を縫って雑魚寝で仮眠をとる状態が連日連夜続いた。

冷たいコンクリートの上で、毛布三枚にくるまりながら搬入車両を気にしての仮眠は、かなりの体力を消耗し、身体を休める環境とは言えなかった。

近年、経済大国として世界に雄飛した我が国は物が豊富となり、金さえ出せば何でも自由に手に入る時代である。

手を延ばせば自分のほしいものが自由に得られる日常生活が一変し、我々ボランティアに最悪の環境が待ち受けていたのであった。それは全く「水」がないという現実である。どこを探しても水がない。洗顔・歯磨きしようにも水がない。

又、地下駐車場は激しい車両の往来で、充滿した排気ガスに悩まされ、厳しい作業が終わるころには、大寒といえ若者たちの顔には汗がにじんでいた。特に、女性が濡れティッシュで顔の汗を拭くのが一際目立ち印象に残った。水（湯）がなく手足や身体を拭くことが出来ず、次第に身体全体が痒く臭くなってくるのが気になって来た頃に、幾つかあったごみ箱は日増しに下着類が溜まっていく。若者はついに使い捨ての道を選んだ（水がなく洗濯ができない）。又、トイレを使うときは、入り口のポリ桶に備えてある溜った水（市役所横の川から汲み上げた水）をバケツ一杯持ち込んで用事を済ませた後に、流して処理するのが精一杯で、手を洗う水などどこにもなく、不潔そのものであった。

蛇口を廻せば水が出て当たり前に思っていた「水」の尊さ、「水」の大切さをいやというほど痛感する日々が続いた。しかし、若者ボランティアは体験した事のない不自由な環境を跳ね除け「救援活動」に責任と自覚を持ち、実によく動き回って呉れた。私にとっては若者を大きく見直し、毎日毎日が貴重な体験と大きな発見の連続となった。

救援活動も一区切りがつき、食糧配給部の解散の前夜は、夜が更けるまでコミュニケーションが展開された。若者はボランティアとして何をしたら良いか考え、迷い、悩む前に、まず「見捨てておけない」「体が自然と動いてしまった」「行動しなければ自分自身が許せなかった。」などと発言は続いた。ボランティアとは、まさしく無償の行為であり、見返りを期待した、感謝を期待してはいけない。と若者の一人が声を詰まらせ、締め括り解散となった。

あの時、流した汗は、今でもわが脳裏から消えない存在となっている。

広報コンテスト 受賞団体・作品

部門Ⅰ

主にサービス利用者やその家族等の読者を対象に法人等が発行している紙媒体の広報誌

老人分野



最優秀賞

写真を中心とした構成、見出しと文章の字のバランスの良い。日々の暮らしが良くなる！

社会福祉法人 おおた福祉会
「ほやほやだより」



優秀賞

社会福祉法人 森田福祉会
「わたぼうし」



審査員特別賞

社会福祉法人 悠善会
「グリーンライフ大和田だより あのの」

障害分野



最優秀賞

手作り感、内容の濃さ、イラストや色合いが工夫されている！

特定非営利活動法人
心の健康相談室 こだちのもり
「こだちのもり通信」



児童分野



最優秀賞

保護者が工夫をこらし、作り手の思いが伝わる！

社会福祉法人 新横江保育園
「つく親報」



優秀賞

社会福祉法人 親渉会
「どんぐり」



福井市東郷保育園
「ほほえみつうしん」



審査員特別賞

敦賀市子育て支援センター
「しぜんニュース！」

福祉広報コンテスト2015 受賞団体決定

社会福祉分野において、必要な情報を的確にわかりやすく伝えることができる広報誌は意識啓発や活動を広げる上で重要な役割を担っており、情報のみならず読者と価値を共有していく有効なコミュニケーションツールとしても、更なる活用が期待されています。

そこで、県内の社会福祉法人・特定非営利活動（NPO）法人等が作成、発行する広報誌のコンテストを行い、広報力の強化を通じた社会福祉活動の一層の普及啓発を推進することを目的に本コンテストを実施しました。

今年度は、昨年度より21団体多くのご応募をいただき、2つの部門をさらに5つの分野にわけ、審査員による第1次書類審査、第2次本審査を行いました。

その結果、13団体が入賞し、12月18日（金）に開催した、第62回福井県社会福祉大会の式典において、福井県社会福祉協議会 清川会長より表彰状、トロフィーが授与されました。

部門Ⅱ

主に関係機関、地域住民等幅広い読者を対象に法人等が発行している紙媒体の広報誌

施設分野



社会福祉法人 光道園
「絆の杜」

最優秀賞

園長あいさつの「目指すべき姿」は、好感がもてる。苦情件数の掲載は、情報公開の点からもよい！



社会福祉法人 金津福祉会
「ふれあいサンホーム」

優秀賞

社協分野



社会福祉法人 大野市社会福祉協議会
「おおの社協だより」

最優秀賞

見出しや文言に「ほっ」と安心する表現が使われ、福祉への思いが伝わってくる！



社会福祉法人 越前町社会福祉協議会
「えちぜん社協だより」

優秀賞



社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会
「わかさ社協だより」

審査員特別賞

ーラム2015開催!

平成 27 年 11 月 29 日 (日)、福井県自治会館において「ふくい・つながりフォーラム 2015」が開催されました。このフォーラムは、広く県民を対象に、ボランティア活動や地域活動の魅力と、活動を通じておかげさまとお互いさまの気持ちで結ばれるつながりや絆の大切さを伝え、つながり支え合う社会をつくりあげることを目的に実施されたものです。フォーラムでは、基調講演やシンポジウム、表彰式、活動内容の紹介や入賞作品の展示が行われました。

基調講演

基調講演では、岐阜県白川村教育長 倉嘉宏さんに「未来につなぐ 白川びとの財産」というテーマでご講演いただきました。

白川村の住民総出で助け合い協力し合う伝統的な取組みである「結い」やその精神が、過去から守り続けられてきた村の貴重な財産であること、また未来の財産である子ども達にこの精神を伝えるために地域の力を得ながら教育を行っていることを話していただきました。話の中で、「生きる」ことは人に何かをしてもらうこと、「生きていく」ことはそれを返していくことであり、生きる上で、感謝の心や敬う心、おかげさまの心を持つこと、また育むことの大切さを語られました。



白川村教育長 倉さん



基調講演の様子

シンポジウム

県内外のさまざまな地域でボランティア活動や地域活動に精力的に取り組んでいる3団体の代表者等から、活動の紹介とともに「人と人とのつながりや地域活動の魅力」について語り合っていました。

コーディネーター	金城大学社会福祉学部	教授	内 慶瑞さん
パネリスト	池田サラリーマンOB会(大阪府)	高橋 和男さん	
	さばcans(鯖江市)	代表 笠原 徹さん	
	すみよい糸生を創る会(越前町)	副会長 渡邊 久志さん	

内さんのコーディネートのもと、池田サラリーマン OB 会の「楽しみながらボランティア活動をしている」様子や、さば cans の「困っている被災地の方に貢献したいという強い気持ち」、すみよい糸生を創る会の「地域活性化に向けて世代を超えて住民全体で活動する」状況が紹介され、自由に集まり楽しみながら活動することの魅力や活動を通して地域住民がつながることの大切さについて意見交換が行われました。



シンポジウムの様子



金城大学教授 内さん



パネリスト(左から、高橋さん、笠原さん、渡邊さん)

ボランティア応援企業認証特別賞表彰式

ボランティア活動に積極的な企業・団体を「ボランティア応援企業認証制度」において認証している企業の中から、特に活動が顕著な企業3企業が表彰されました。

受賞企業 (50音順、敬称略)

株式会社ウォンツ 清川メッキ工業株式会社 福井信用金庫



応援企業認証特別賞表彰式

ふくい・つながりフォ

エコキャップアートコンテスト 表彰式・入賞作品展示

このコンテストは、捨てればゴミになってしまうペットボトルのキャップを使って大きな絵（アート）を制作するもので、県民のみなさんが「つながり」を実感したり、その「楽しさ」や「喜び」を共感したりする機会づくりを目的に、平成22年度から実施しています。

今年は『ふるさとへの愛』をテーマに1畳部門、2畳部門あわせて25チームがエントリーし、10月24日（土）・25日（日）に福井市のショッピングセンター『ラブリーパートナー・エルパ』（来場者696名）にて、作品の展示・審査を経て「ふくい・つながりフォーラム2015」で表彰が行われました。

どの作品もデザイン性に優れ、見ごたえがある作品が揃いました。



受賞されたグループのみなさん

賞 名	<1畳サイズ部門>	<2畳サイズ部門>
大 賞	グループホーム白楽荘 みくにの里 	西徳寺保育園 
優秀賞	 レインボー 21	 森田中学校 1 年生
ラブリー賞	朝日小学校 環境福祉委員会 	木村病院 作業療法室 

今回のコンテストで集まったキャップは、約 277,100 個（ワクチン約 322 人分）

コンテストで使用したキャップは、製作グループごとにリサイクルしますが、その売り上げは海外の子どもたちにワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付されます。



アクティブ・シニア活動、市町イチオシボランティア活動の紹介、作文コンクール入賞作品展示

市町ボランティアセンターの一押しのユニークなボランティア活動や、実際にボランティア活動や地域活動を行っているシニアグループの活動内容、また生き生きと活動されているシニアの方の様子を紹介しました。あわせて今年度の作文コンクールの入賞作品16点を展示しました。



アクティブ・シニア活動紹介



市町イチオシボランティア活動紹介

「積善会号」があなたのまちへ

第5回福祉車両（積善会号）寄贈事業

本県の社会福祉の増進に寄与することを目的に、平成25年11月に解散した財団法人積善会からの助成金運用益により、県内社会福祉関係機関・団体等へ福祉車両を寄贈する事業が実施されました。

今回は特に、高齢者および障害者の福祉推進を目的とする事業を対象に募集を行い、寄贈先は、社会福祉法人 小浜市社会福祉協議会に決定しました。

この事業は福祉車両を使用して地域の高齢者や障がい者など地域に暮らす人たちが相互につながり、分かち合いを深めていくことを主な目的にする活動を対象にスタートしました。

今年度で、5回目を迎え、これまで寄贈した福祉車両の合計は、15台となります。



第5回寄贈先

社会福祉法人 小浜市社会福祉協議会
ニッサン キャラバン(2WD-5AT) 1台
車いすのまま乗降できるスロープ付き車両です。



このマークの車が県内を走ります。



財団法人 積善会

財団法人 積善会は、昭和45年(1970)4月に元福井放送社長の加藤尚氏によって設立された団体で、三国競艇を運営する武生三国モーターボート競走施行組合からの交付金を福祉向上のための支援金とすることを目的に事業を開始しました。

県内の社会福祉団体や福祉活動に対し積極的な助成を行うとともに、教育やスポーツ、文化、地域づくりなどにも支援してきました。

積善会は平成25年(2013)11月をもって解散しましたが、この43年間の助成累計は約1600件、約30億円にのぼります。